



岐阜大学アクションプラン 2022

～グリーンキャンパス構想の実現に向けて～

目次

1章 はじめに ー岐阜大学キャンパスマスタープランー

- 1-1 岐阜大学グリーンキャンパス構想
- 1-2 GIFU Planning Cycle

2章 コンテンツ ーアクションプラン 2022ー

- 2-1 第4期中期目標・中期計画
- 2-2 『アクションプラン 2022』の方針
- 2-3 評価・検証の方法

3章 アクションプラン ーアクションプラン 2022ー

- 3-1 交通計画
 - ①アクセス計画
 - ②学内交通計画
- 3-2 配置計画
 - ③緑地環境形成計画
 - ④水辺空間形成計画
 - ⑤建物配置誘導計画
- 3-3 施設計画
 - ⑥スペースマネジメント
 - ⑦教育・研究拠点整備計画
 - ⑧インフラ長寿命化計画
 - ⑨カーボンニュートラル推進計画
 - ⑩DX推進計画

4章 資料

- 「岐阜大学カーボンニュートラルロードマップ」
- 「岐阜大学 ZEB 化計画」

1章 はじめに 一岐阜大学キャンパスマスタープラン

1-1 岐阜大学グリーンキャンパス構想

岐阜大学グリーンキャンパス構想とは、岐阜大学の理念と目標を実現するための空間づくりを使命とし、現キャンパスの利点を活かしつつ獲得する将来像を示し、そこへ至る過程の考え方を示したものである。

このキャンパスマスタープランによって描かれるキャンパスの将来像は、「グランドビジョン」と「基本方針」および、「デザイン指針」で構成され、「岐阜大学のキャンパスが挑む課題」に対応しつつ、活力ある教育・研究環境の創造のために、全キャンパスを視野に入れた創発的な解答として求められたものである。

岐阜大学グリーンキャンパス構想の軸は、3つの「グランドビジョン」と、このもとに並ぶ5つの「基本方針」によって構成される。これらが示す岐阜大学のキャンパスが得べき基本的な空間理念は、研究者・教員および学生が互いに交流し議論し高め合うことを可能とすることで教育・研究の現場を一層豊かにし、そこから得られる日常の活発さを基盤として、地域社会へ貢献すべく諸活動と、国際社会へ向けて発信し交流する人々を育てる最善の策で満ちている。

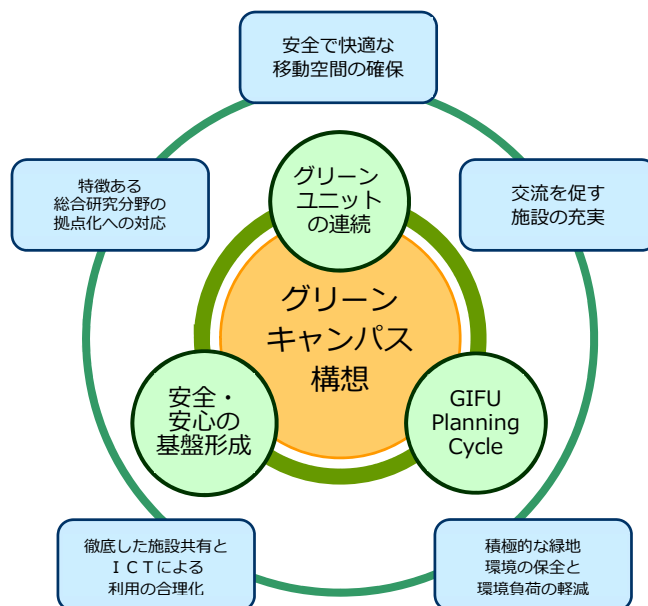


図 1-1 マスタープランの「グランドビジョン」と「基本方針」の構成

さらにこれらを実施するためのアクションプランとなるものが21の「デザイン指針」である。グランドビジョン及び基本指針は、原則として揺るぎなく受け継がれるべき方針であり、デザイン指針は具体的な整備に従って随時議論され、よりよい方向へ修正され得るものである。

1-2 GIFU Planning Cycle

GIFU Planning Cycle とは、流動的かつ実施可能なプランニングとするために導入される本学独自の PDCA サイクルであり、G は Grand vision、I は Individual planning、F は Frame check、U は Unification を表す。すなわちグランドビジョンを遵守して個別アクションを設けて実施し、その時期の社会背景や国の方針、機構および本学の理念や目標等に基本方針及びデザイン指針が一致しているかを検討し、適切な修正案を議論し、キャンパスマスタープランを統合することを繰り返すサイクルとなっている。

このサイクルは、永続的に存在する本学の理念と目標を基に 6 年毎に作成される中期目標・中期計画に合わせて実施される。策定されたキャンパスマスタープラン (G) は、中期目標・中期計画が作成された段階において、ブレイクダウンされたアクションプランが策定、運用される (I)。中期目標・中期計画が終わる段階において、アクションプランならびにキャンパスマスタープランの評価・検証を実施する (F)。その評価・検証に従いキャンパスマスタープランの修正等について統合を行い (U)、キャンパスマスタープランの改訂を実施する (G)。改訂されたキャンパスマスタープランから新たにアクションプランを策定、運用する (I)。このようなサイクルを繰り返すことにより、キャンパスマスタープランはより洗練されたものとなる (図 1-2)。

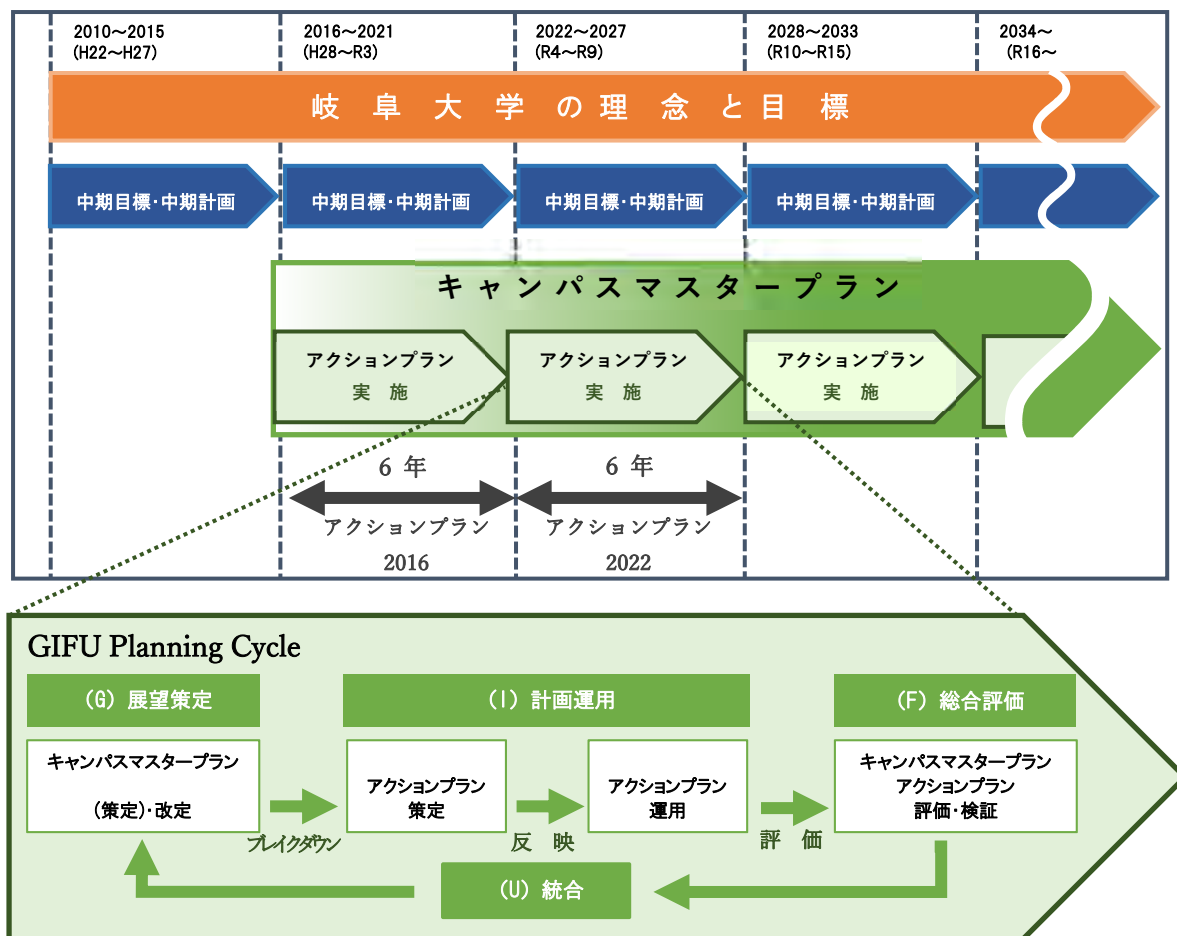


図 1-2 GIFU Planning Schedule&Cycle

グリーンキャンパス構想 イメージ図



「岐阜大学キャンパスのイノベーション・コモンスズ化」

機構版イノベーション・コモンスズ（共創拠点）

↑ **アカデミックイノベーション** | **イノベーション**
 ↑ **知のリージョナルコモンスズ（岐阜大学）**

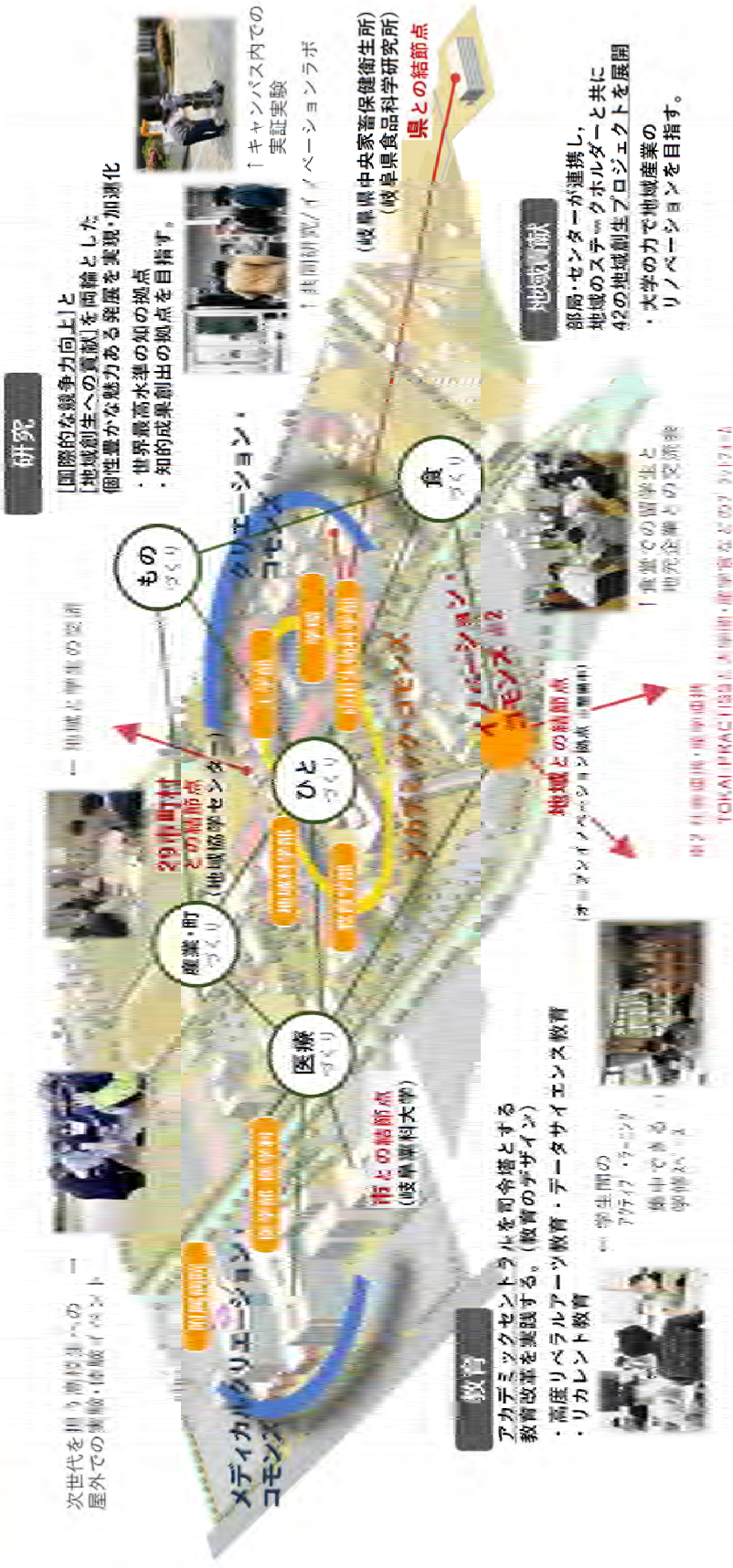
(R2年6月30日 岐阜大学施設マネジメント推進室会議 了承, R4.6.7 一部改訂)



知のグローバルコモンスズ
 (名古屋大学)

- 教育
- 研究
- 地域貢献

※1 「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画(令和3年3月)」における共創拠点



2章 コンテンツ –アクションプラン 2022–

2-1 第4期中期目標・中期計画

令和4年度から始動する第4期中期目標・中期計画では、「東海国立大学機構施設マネジメント方針」に基づき以下の目標を掲げている。

『アクションプラン 2022』では、この中期目標・中期計画を反映した実施計画に基づき施設整備を進める。

「東海国立大学機構施設マネジメント方針」

- | | |
|-------|--|
| 方針 1. | 中期目標・中期計画等、機構の中長期的な戦略を踏まえ、教育研究環境の維持・向上、DX（デジタルトランスフォーメーション）化等、社会の変革に対応した個性的で魅力あるキャンパスづくりを実現するため、計画的にキャンパスの施設整備・維持管理等を行う。 |
| 方針 2. | 施設は、機構のもつ重要な経営資源の一つであるため、各大学間での共同利用を積極的に進めるとともに、スペースを戦略的に配分するなど、施設の有効活用を最大限図る。 |
| 方針 3. | 保有施設総量の最適化、インフラの長寿命化、スケールメリットを生かした契約手法の採用など、保有施設全体のライフサイクルコストの低減と平準化の実現に向けた様々な取り組みを進めるとともに、維持管理費の確保に向けた持続可能なサイクルを構築する。 |
| 方針 4. | 政府が掲げるカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現等の目標を踏まえ、国立大学として社会的責務や費用効果等を総合的に勘案し、省エネルギー対策や再生可能エネルギーの導入等の様々なエネルギーマネジメントを実践する。 |

第4期中期目標（施設整備該当部分抜粋）

TM16 一法人複数大学の特色を生かし、両大学の機能を最大限発揮するため、基盤となる施設及び設備について、保有資産を最大限活用するとともに、東海機構としてのマネジメントによる戦略的な整備・共用を進め、地域・社会・世界に一層貢献していくための機能強化を図る。

第4期中期計画（施設整備該当部分抜粋）

TK16-1 東海機構の施設マネジメント方針を踏まえ策定した両大学のキャンパスマスタープランに基づき、数理・データ科学・AI教育や産官学共創教育といった次世代教育を実践し世界で活躍する人材を輩出する東海機構プラットフォーム棟などの革新的な共創教育拠点施設、世界の糖鎖研究者によるトップレベル共創的研究により生命原理の解明と応用を可能にし医療の革新をもたらす糖鎖生命コア研究拠点施設などの世界最高水準の共創研究拠点施設、東海地域の大学・産業界・自治体といった多様な「人」と「知」の共創によりイノベーション創出をもたらす地域連携グローバル人材育成拠点施設などの産学連携・地域連携拠点施設等を整備する。また、前述の機能強化を支える両大学のDX推進に対応したインフラ基盤を整備する。また、前述の機能強化を支える両大学のDX推進に対応したインフラ基盤を整備する。

TK16-2 新たな教育研究ニーズに対して、保有資産を最大限活用し、機構長自らの裁量で配分できるスペースを確保するために、新たな仕組みを導入する。また、既存施設を最大限有効に活用するために、効率的かつ計画的に改修・維持管理を実施し、施設・インフラの長寿命化を図る。

2-2 『アクションプラン 2022』の方針

大学ビジョンはもとより、法人統合により令和2年度から始動した東海国立大学機構として、各大学のもつ強みや特色を活かしつつ、両大学の機能強化を図り、第4期中期目標・中期計画を踏まえたキャンパス整備・運用と効率的かつ効果的な施設マネジメントを推進する。

『アクションプラン 2022』では、前アクションプラン（アクションプラン 2016）の構成を引き継ぎつつ、前期間中（6年間）に変化した社会情勢等を踏まえた10項目の実施計画に基づき整備を実施する。

① アクセス計画	② 学内交通計画
③ 緑地環境形成計画	④ 水辺空間形成計画
⑤ 建物配置誘導計画	⑥ スペースマネジメント
⑦ 教育・研究拠点整備計画	⑧ インフラ長寿命化計画
⑨ カーボンニュートラル推進計画	⑩ DX推進計画

2-3 評価・検証の方法

前アクションプラン（アクションプラン 2016）においては、3つの基本計画「交通計画」、「配置計画」、「施設計画」をもとに整備等を行った結果、「施設計画」における実施内容に関して評価できた一方、「交通計画」「配置計画」では、一定の取組みに留まり、十分な整備に至っていない。

その背景には、整備に必要な財源の確保や安全対策をはじめとする緊急点検への対応、新型コロナウイルス感染症に関わる大学環境の変化など、様々な外的要因が考えられる。一方で計画段階において実施内容が明確でなかった内的要因もあげられる。

このような反省を踏まえ、今期アクションプランにおいては、6年間（R4～R9）で実行する、具体的かつ定量的な整備目標を設定し、各項目について毎年度の進捗確認を行い、最終年度において今期アクションプランの評価・検証を実施する。

評価は、項目毎に設定した目標に対し、6年間で実施した内容と照合して、その達成状況を下記の4段階で個別評価する。加えて各項目の達成、未達成の主な要因および課題の分析を行い、最終的にアクションプラン自体の総合評価と、キャンパスマスタープランの改訂および次期アクションプラン策定に向けた総括を行う。

【個別評価】

A 達成出来ている	80%～
B 概ね達成出来ている	50%～79%
C 進行中・計画段階	20%～49%
D 未着手・課題がある	～19%

3章 アクションプラン –アクションプラン 2022–

3-1 交通計画

①アクセス計画

現状と課題

平成16年の医学部・医学部附属病院の移転によるキャンパス人口の増加に伴い、キャンパスとその周辺における交通問題が深刻化しており、加えて、今後東海環状自動車道（仮称）岐阜ICの開通やそのアクセス道路の整備により、本キャンパスへの来訪経路が大きく変化する可能性があることから、キャンパス周辺を含めた交通対策を検討する必要がある。

本キャンパスは、周囲を河川に囲まれている特徴から出入口が限定され、特に通勤・通学の時間帯において、人・自転車・車の動線が集中することから、安全で快適な移動空間の確保が求められる。

また、本キャンパスにおいては自動車を利用する者が多く、駐車場内での接触事故や駐車スペースの飽和といった問題も生じており、駐車場においても対策を講じる必要がある。



図3-1 キャンパス入口付近の交通状況

（上：渋滞の様子／下：動線の交錯）

目標と計画

主要な2カ所の入口（大学橋、大学西橋）から各移動手段における動線の明瞭化と、目的地までの移動の円滑化を図るため、誰でも分かりやすく、デザインの統一された案内標識（サイン）の整備を行う。

加えて、緑地整備と共に駐車スペースの拡張や通行の支障となる樹木の撤去を実施する。

目標① デザインの統一されたサインの設置

- ・キャンパス内における案内標識（サイン）のデザインガイドラインを策定
- ・新営・改修時において、ガイドラインに則ったサインの設置

目標② 安全で快適な駐車場の整備

- ・駐車場周辺の支障樹木の撤去および駐車スペースの拡張
- ・構内道路の舗装・補修を実施

目標③ 道路・交通管理者との連携による混雑対策

- ・流入地点ごとの駐車場所のゾーニングや経路指定

②学内交通計画

現状と課題

本学のキャンパスにおいては、人・自転車・車の動線の交錯が問題となっている。

交通に関する基本方針において“構内は人間優先”とし、自動車動線については外周へ回しているが、構内外周道路の内側では歩行者と自転車の動線の分離がなされておらず、混雑時には接触の危険がある。また、構内通路脇に配置した駐輪スペースから溢れた自転車によって、通路幅が狭まり通行の妨げとなっているエリアが随所であり、自転車走行に適さない狭隘な通路や歩行者空間における対策を講じる必要がある。

また、災害時に地域の避難所としての機能も持つことから、学内外の誰もが避難場所まで安全かつ円滑に誘導できる工夫が必要である。



図 3-2 キャンパス内の駐輪自転車

(左：通路を狭める自転車)

(右：駐輪場から溢れる自転車の様子)

目標と計画

本アクションプランでは、“構内は人間優先”という基本方針に則り、現在錯綜している歩行者動線と自転車動線の分離を目指す。特に、人と自転車による接触事故の危険性が高い場所（大学会館から各部局校舎までの通路）においては、自転車走行における規制を行い歩行者空間の確保を実施する。

目標① 自転車走行及び駐輪に関する規制の実施

- ・現状を踏まえ自転車動線計画を作成、動線の誘導を実施
- ・自転車動線計画を基に自転車走行及び駐輪に関する規制を作成、導入

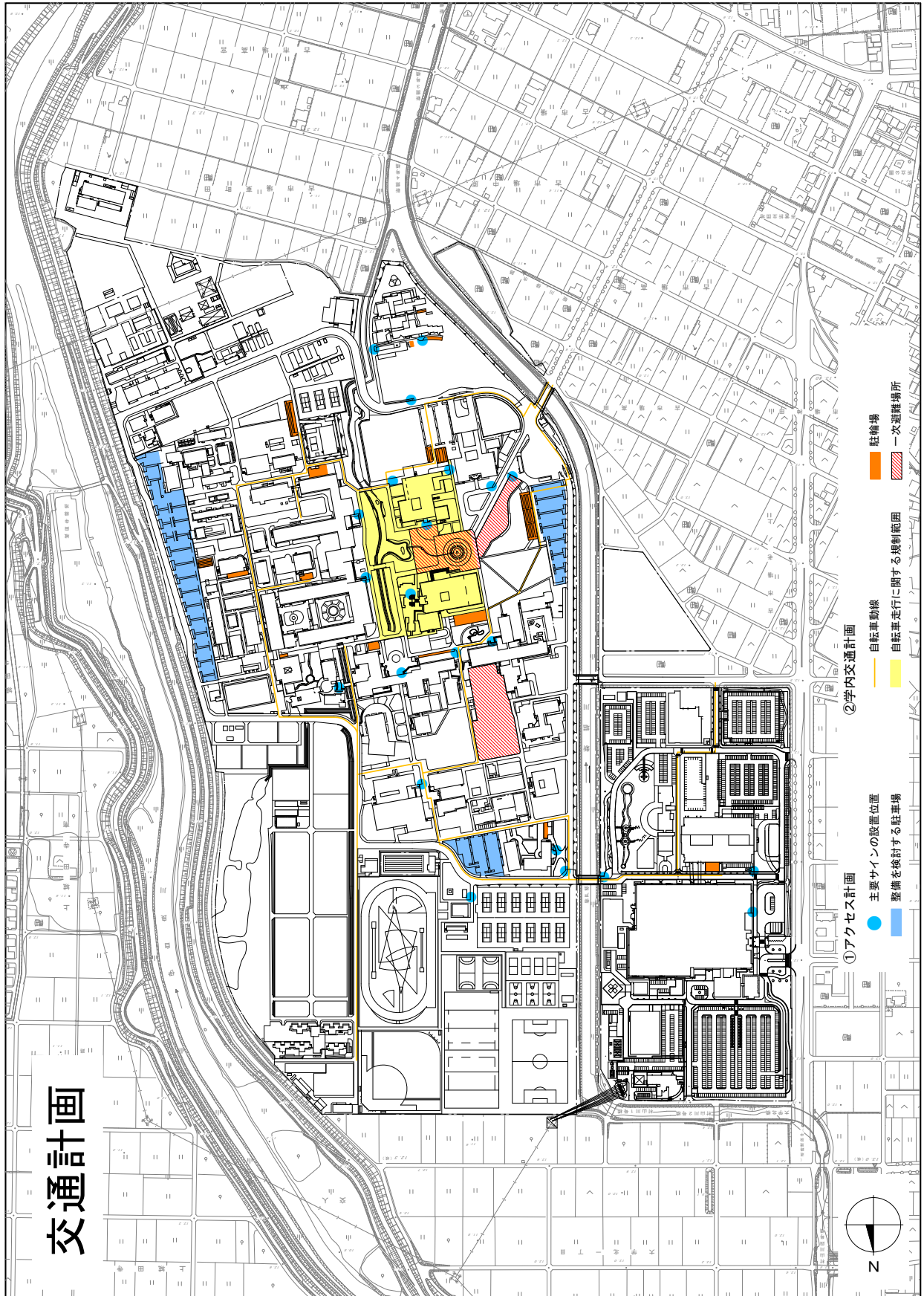
目標② 歩行者空間の確保

- ・放置自転車の撤去
- ・駐輪状況の分析を基に駐輪場の新設を検討、整備

目標③ 災害時の避難場所および避難ルートの確保

- ・学内における避難場所・避難ルートの確認と掲示等による周知を行う

交通計画



3-2 配置計画

③緑地環境形成計画

現状と課題

現状として、施設整備に伴う工事の際に支障となる樹木を無作為に撤去するなど、計画的な緑地管理が実施されておらず、緑地の持つ機能や魅力が十分に引き出されていない。また、前アクションプラン期間において、随時剪定等を実施したところだが、成長し過ぎた高木や低木の維持管理が追いつかず、今後、視界不良による衝突事故や倒木、枝の落下といった危険性が考えられる。

そのため、キャンパス内の緑地および植栽についての整備方針を策定し、その方針に沿った緑地管理を実行する必要がある。



図 3-4 キャンパス内の緑地空間（左：建物と分断された空間 / 点字ブロックを覆う植栽 / 右：駐車場支障低木）

目標と計画

キャンパス内の緑地は、人による利用形態に対応するように整備されることが望ましいため、機能の異なる緑地をキャンパス内の利用形態に応じて異所的に配置し、3つの効果（アメニティー効果、クールダウン効果、生態系機能創出効果）を発揮する空間整備を目指す。

目標① 植栽剪定に関する具体的な整備計画の策定

- ・キャンパス内における緑地保全に関する計画を作成
- ・植栽の種類（高木、低木、草本）に合わせたガイドラインを作成

目標② 大学中心にグリーンユニットを整備

（図書館前広場、丸池、図書館ラーニング・コモンズを含む緑地空間の整備）

- ・支障樹木の伐採
- ・枯れ枝を含む枝の剪定による安全で快適な空間の確保
- ・生垣の撤去による利用可能空間の増加と開放的空間の造成

④水辺空間形成計画

現状と課題

本キャンパスは、新堀川や鶴ヶ池、キャンパス内水路など特徴的な水辺空間を有しながらも、茂した植栽や看板等の工作物により水辺空間までのアクセスが確保されておらず、キャンパス内の各施設に対して閉鎖的な印象を受ける。

水辺空間としての魅力が十分に引き出されているとはいえない状況であるため、人を惹きつけるような環境の改善も必要である。



図 3-5 キャンパス内の水辺空間 (左：鶴ヶ池 /中央：キャンパス内水路 /右：看板等により分断された空間)

目標と計画

積極的な緑地環境の保全と環境負荷の軽減を基本方針として、本キャンパスのもつ特徴的な水辺空間を活かした人々が集い憩う魅力ある空間の形成を目指す。また、鶴ヶ池周辺の自然保存地においては、野鳥観察やビオトープといった環境教育およびレクリエーションの場として、保全的整備を行う。

目標① 大学中心にグリーンユニットを整備

(工学部校舎・応用生物科学部校舎・大学会館・図書館が囲う水辺空間の整備)

- ・ 寄附井戸、丸池、キャンパス内水路の清掃
- ・ 水辺空間へのアクセスを整備 (例：水路に沿った遊歩道の整備)
- ・ 学内公募、ネーミングライツなどを活用し水辺空間の名称(愛称)を付与

⑤建物配置誘導計画

現状と課題

本キャンパスでは、「岐阜大学グリーンキャンパス構想」において、大学が目指すべきキャンパスイメージ図に倣った施設整備の方向性を示してきた一方で、各部局の意向も考慮した施設整備の影響もあり、建て詰まりや緑地面積の減少、デザインの統一性の欠如といった問題が起きている。その結果、キャンパスマスタープランで示すグリーンキャンパス構想と現状の建物配置との間で乖離が生じており、今後の施設整備を進めていく上で随時見直していく必要がある。

目標と計画

「岐阜大学グリーンキャンパス構想」で示すキャンパスの将来像に向け、現状を踏まえた新しい将来像へ更新し、今後の施設マネジメントにおける施設整備の方針を全学的に共有する。さらに、緑地環境形成計画および水辺環境形成計画で示す、魅力ある屋外空間の整備に向けて、共創空間である“グリーンユニット”の整備を積極的に実施する。

目標① 「岐阜大学グリーンキャンパス構想」に示す、大学の将来像を更新

- ・ 現状建物配置を基にグリーンキャンパス構想のイメージ図を更新
- ・ グリーンキャンパス構想をベースとした施設整備方針を共有
- ・ 学内公募、ネーミングライツなどを活用しグリーンユニットの名称（愛称）を付与

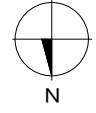
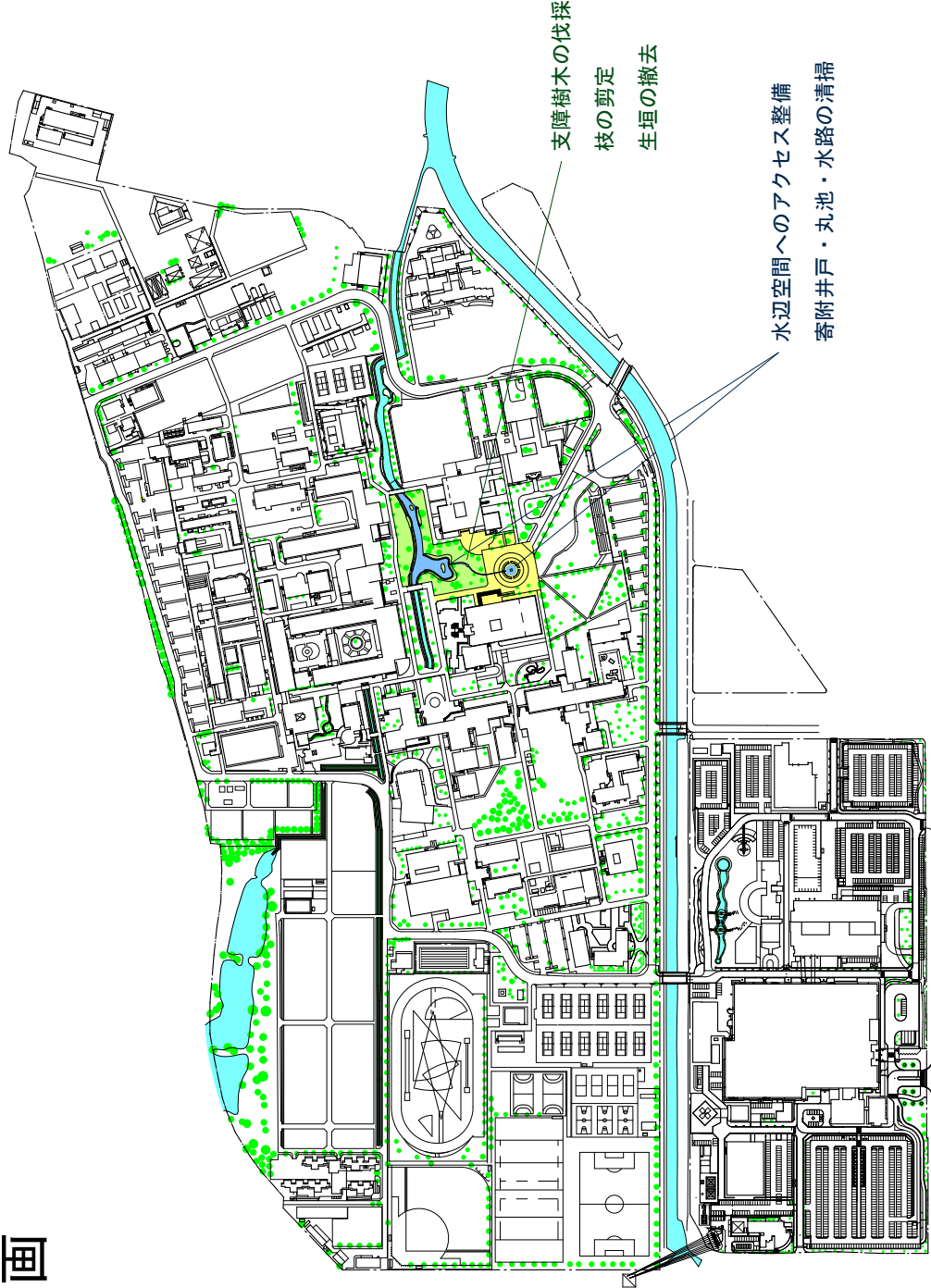
目標② 「岐阜大学グリーンキャンパス構想」に向けた建物配置への誘導

- ・ 建物トリアージの実施
- ・ 既存施設の改修、改築、減築を中心とした整備を実施



図 3-6 魅力的な緑地空間と水辺空間のイメージ （上画：永沢 まこと）

配置計画



- ③緑地環境形成計画
● 剪定を計画する植栽
■ グリーンユニット整備（緑地）
- ④水辺空間形成計画
■ 水辺空間
■ グリーンユニット整備（水辺）
- ⑤建物配置誘導計画
■ グリーンユニット整備

3-3 施設計画

⑥スペースマネジメント

現状と課題

施設は機構が所有する重要な経営資産の一つであり、新たな教育研究ニーズに対して保有資産を最大限活用し、スペースを戦略的に配分する仕組みを導入する必要がある。そのために、機構長の裁量スペースを確保し、効率的かつ効果的な施設マネジメントを推進することが求められている。

今後、改組や新任・若手研究者のためスペースが必要となった際に、適切にスペースを配分できる仕組みをつくり、全学的な施設マネジメントを加速させる必要がある。

目標と計画

機構もしくは大学として管理するスペースは、必要とする者に対し適切に配分し、効率的かつ効果的に運用することが望ましいため、これまで部局単位で運営していたスペースを機構として一元的に管理運営する新しい仕組み（スペースチャージ）を導入する。

目標① 新たなスペースチャージ等の仕組みを導入

- ・機構として新たなスペースチャージ等の仕組みを導入

目標② 様々な利用目的に対応可能なスペースの整備

- ・収容人数や利用目的といった様々な条件に対応可能な設計を推進

⑦教育・研究拠点整備計画

現状と課題

国立大学等の役割として、教育研究の機能強化に加え、地域・社会・世界における貢献、社会の様々な人々との連携により創造活動を展開する「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」の実現が求められている。

本キャンパスにおいては、学生の能動的学修を支援する拠点”アカデミック・コモンズ”と、産官学連携により専門技術を持つ人材の育成および研究開発を促進させる拠点”リサーチ・コモンズ”により形成される、“岐阜大学イノベーション・コモンズ”を定義し、グリーンユニットと呼ばれる共創空間を整備してきたが、現状として個々のスペースの繋がりが希薄である印象から、キャンパス内においてさらなる展開が課題である。

目標と計画

今後の施設整備において、より積極的に「グリーンユニット」をキャンパスの各所に設置し、ユニット同士の連続性と改修・新営時における「イノベーション・コモンズ」への転換、ひいては「岐阜大学グリーンキャンパス構想」に沿った整備を進める。

目標① イノベーション・コモンズへの転換

- ・施設整備に伴うイノベーション・コモンズの設置

目標② 教育・研究を推進する施設整備を実施

- ・機構直轄の研究拠点である「糖鎖生命コア研究所」の整備
- ・多様な財源を活用した施設整備を実施

⑧インフラ長寿命化計画

現状と課題

近年の整備により、本キャンパスの規模は拡大し、施設・設備の数が増加している一方で、厳しい財政状況より限られた予算内で、将来にわたり効率的・効果的な維持管理を実施していく必要がある。

施設マネジメントについて、「クオリティ・スペース・コスト」の3つの視点から、総合的なバランスを図りつつ実施するものとし、これまでの事後保全から予防保全に転換する必要がある。

目標と計画

「岐阜大学インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」（平成30年度策定）に則り、計画的に施設・設備の老朽化対策の整備を行う。校舎等大型改修やライフラインの更新は、施設整備費補助金による整備を中心として実施し、外壁改修、防水改修をはじめとする部分改修も、計画に示した改修周期を目途に実施していく。

また、災害や事故の発生を未然に防ぎ、教育・研究活動への支障を回避すべく、毎年度の「建物外構点検調査計画」を踏まえた計画的および継続的な予防保全を目指す。



目標① 計画的なインフラ改修および施設点検の実施

- ・「インフラ長寿命化計画（個別施設計画）」に則った改修
- ・「建物外構点検調査計画」に則った点検調査および修繕

目標② 校舎等大型施設の改修を実施

- ・施設整備費補助金概算要求の実施、予算化事業を着実に実施

⑨カーボンニュートラル推進計画

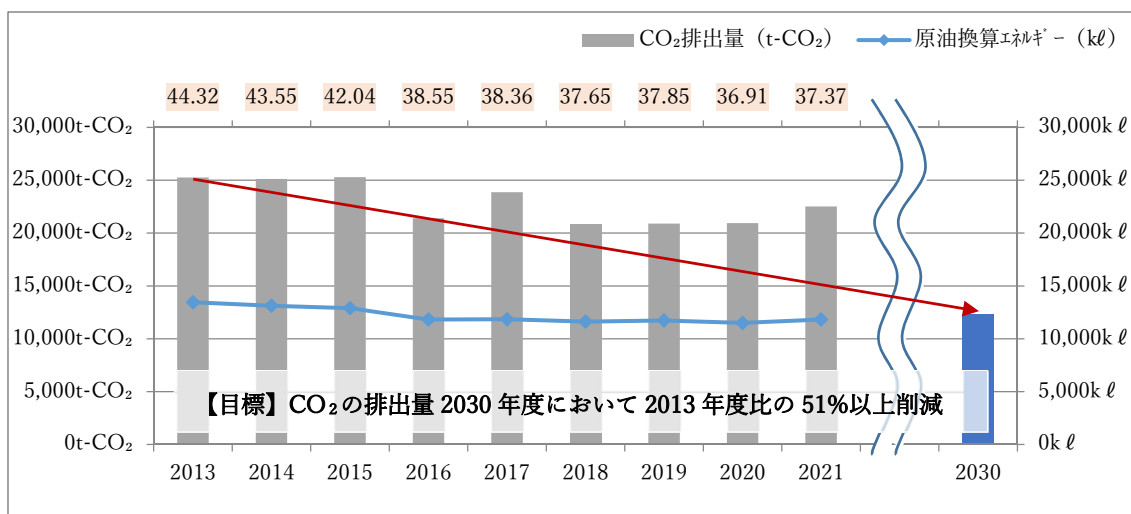
現状と課題

2020年、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言しており、本キャンパスにおいても同取組みを推進していく必要がある。現状、2016年に閣議決定した「地球温暖化対策計画」に伴い、本学では、2030年度を目標にCO₂排出量削減目標を2013年度より51%以上削減と設定し、照明機器のLED化や空調設備の更新による「省エネ改修」を行っているが、カーボンニュートラルの実現に向け、取組みをさらに加速させる必要がある。

目標と計画

将来的なカーボンニュートラルに向けた更なる対応策として、これまでの照明・空調による「省エネ」改修に加え、再生可能エネルギーの導入「創エネ」やCO₂の吸収を担う緑地の確保を実施、施設整備に関しては、建物のZEB化の積極的な導入を検討する。

資料掲載：カーボンニュートラルロードマップ、ZEB化計画表、省エネ改修計画表



目標① 6年間の継続的なCO₂排出量の削減 6年間で6,800 (t-CO₂)削減

・照明機器LED化及び空調設備の更新を実施

目標② 再生可能エネルギーの導入

・再生可能エネルギーの導入を計画

・Nearly ZEB (建物のZEB化) を計画・積極的な導入を検討 (大規模改修、新築時に導入)

⑩DX 推進計画

現状と課題

デジタル化が進む現代において、新しい教育・研究活動のニーズに対応した施設の整備が求められる。近年加速しているオンライン化に対応した教育・研究環境の整備が必要であり、通信環境の充実や講義室等の施設利用の見直しが急務である。

今後は、バーチャルとリアル双方の利点を取り入れた新しい教育・研究環境を整備し、リアルだからこそ必要な施設の在り方について、再検討を実施する必要がある。

目標と計画

本キャンパスにおける情報通信設備の整備、ICT を活用した施設の運営・管理を行い、施設の集約化を視野にオンライン授業に対応した講義室を整備する。

具体には、施設整備費補助金によるライフライン（情報通信）改修を実施し、学内ネットワークを整備する。さらに ICT を活用した施設予約管理システムの導入により、施設利用実態を把握し、効率的なスペースマネジメントを実施する。

目標① キャンパス内における通信環境の整備

- ・施設整備費補助金によりライフライン（情報通信）改修を実施

目標② ICT を活用した施設マネジメント

- ・機構による一元化した施設予約管理システムの導入
- ・施設予約管理システムを活用した施設実態調査を実施

1章 はじめに

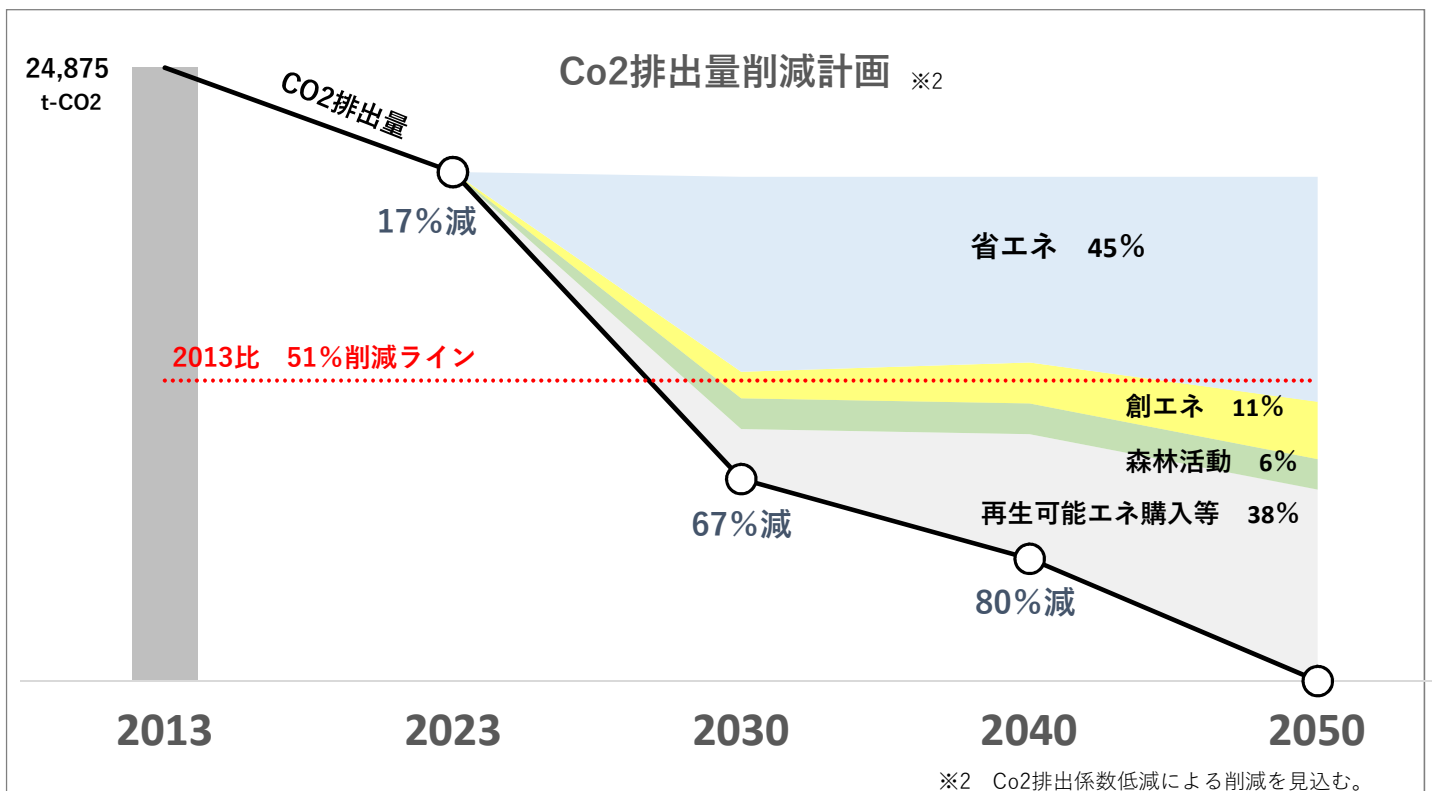
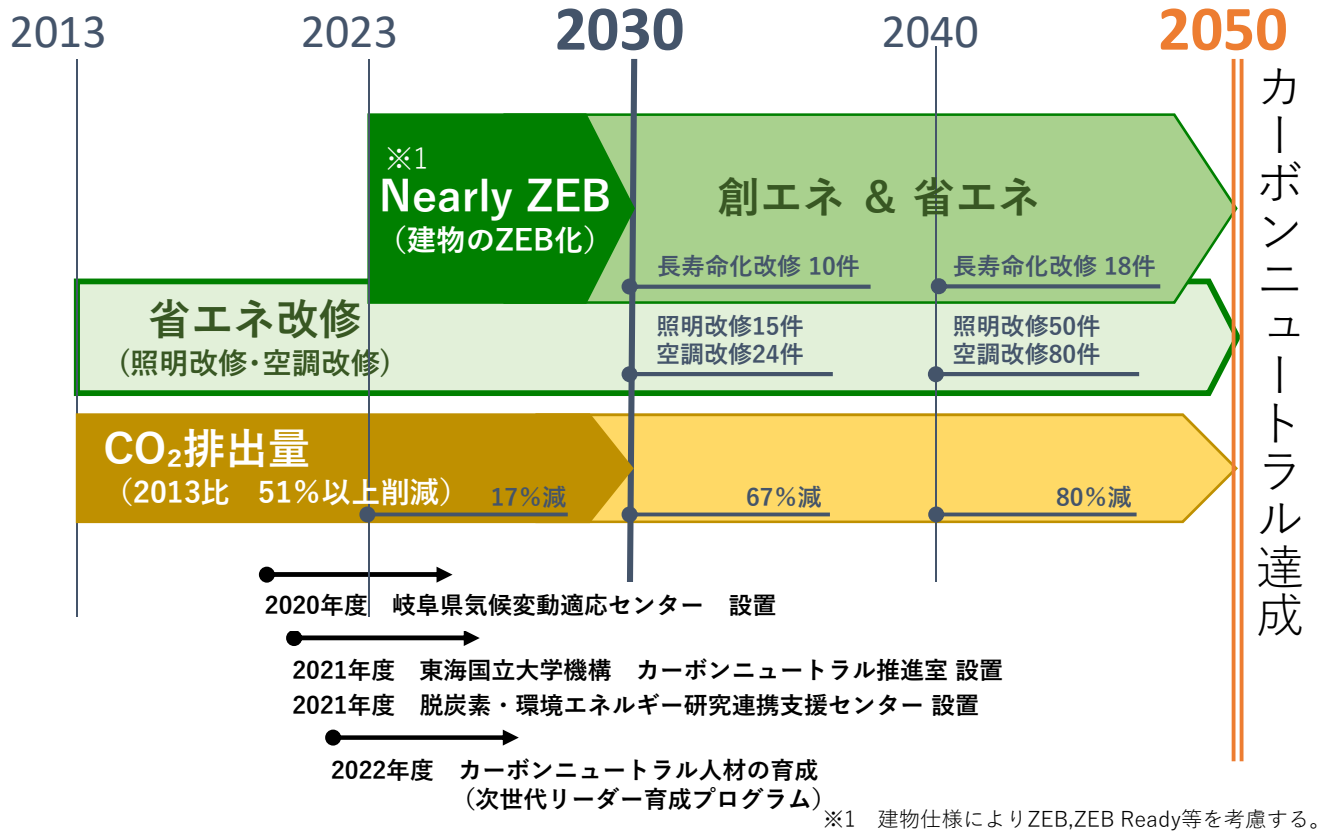
2章 コンテンツ

3章 アクションプラン

4章 資料

4章 資料

岐阜大学カーボンニュートラルロードマップ



岐阜大学ZEB化計画表

『長寿命化改修(機能強化改修)』にZEB化を実施

【補助金事業】

建物名称等	第4中期計画						次期中期計画				事業費 (千円)	
	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13		
教育学部校舎	A西棟 4,890㎡			Nearly ZEB								864,000
	A棟東 4,310㎡			Nearly ZEB								761,520
	音楽棟他 4,310㎡			Nearly ZEB								761,520
	B棟,C棟 2,810㎡			Nearly ZEB								496,490
地域科学部・共通教育棟	A棟 4,670㎡						Nearly ZEB					825,130
	C,D,E棟 3,790㎡						Nearly ZEB					669,640
	B,F棟 2,590㎡						Nearly ZEB					457,620
工学部校舎 (日影平)	C棟 1,800㎡	Nearly ZEB									425,700	
流域圏科学研究センター	778㎡					Nearly ZEB					128,370	
農場管理棟	859㎡							Nearly ZEB			87,120	
第2食堂	1,386㎡								Nearly ZEB		228,690	

省エネ改修計画

照明機器LED化及び空調設備の更新(中規模改修)を実施

【自己財源】

建物名称等	第4中期計画						次期中期計画				事業費 (千円)	
	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8	2027 R9	2028 R10	2029 R11	2030 R12	2031 R13		
国際交流会館B棟 (照明改修)											10,998	
インキュベーション施設 (空調改修)											16,515	
地域共同研究施設 (空調改修)											17,835	
特別支援教育センター (空調改修)											16,650	
医学部生命科学棟 (空調改修)											98,730	
医学部教育・福利棟 (空調改修)											56,610	
医学部記念会館 (空調改修)											13,920	
研究ラボ (照明改修)											9,156	
ゲノム研究棟 (照明改修)											9,024	
中央校舎 (空調改修)											22,755	
医学部看護学科校舎 (照明改修)											21,462	
地域科学部校舎 (照明改修)											20,124	
医学図書館 (空調改修)											30,480	
保育園舎 (空調改修)											4,065	
情報館 (照明改修)											8,604	
医学部看護学科校舎 (空調改修)											52,245	
研究ラボ (空調改修)											22,890	
総合研究棟Ⅰ (空調改修)											118,290	
連農・連獣研究科校舎 (空調改修)											33,915	
動物病院診療棟 (空調改修)											13,680	
動物病院多目的棟 (空調改修)											2,895	
医学部本館 (空調改修)											453,750	
医学部看護学科校舎 (照明改修)											20,898	
野生動物管理学研究センター (照明改修)											1,398	
ゲノム研究棟 (空調改修)											22,560	
医学部本館 (照明改修)											181,500	
インキュベーション施設 (照明改修)											6,606	
南校舎 (空調改修)											78,105	
医学部生命科学棟 (照明改修)											39,492	
総合研究棟Ⅰ (照明改修)											47,316	
動物病院管理棟 (照明改修)											1,560	
多目的教育研究棟 (空調改修)											11,820	
北校舎 (空調改修)											68,070	
図書館 (空調改修)											90,120	
図書館(増築棟) (空調改修)											28,665	
医学部教育・福利棟 (照明改修)											22,644	
医学部記念会館 (照明改修)											5,568	
動物病院MRI-CT棟 (空調改修)											2,220	
教育学部実験棟 (空調改修)											1,665	
北校舎 (照明改修)											27,228	
工学部校舎(C棟) (空調改修)											115,365	
医学図書館 (照明改修)											12,192	
金型創成技術研究センター実習室 (照明改修)											1,494	
保育園舎 (照明改修)											1,626	
中期計画期間の事業費(単年度平準額)											179,482	191,454
中期計画期間の事業費(全体)											1,076,889	765,816

令和4年3月10日 施設マネジメント推進室 承認
(改訂) 令和4年6月7日 施設マネジメント推進室 承認